

岩手県久慈市

知的好奇心を刺激する体験型施設の開発 新成型技術の開発による異分野への進出

昭和56年、久慈産琥珀の地場産業育成の観点から、岩手県及び久慈市より誘致を受け琥珀加工企業として設立。琥珀産出地の利を生かし、原石採掘からアクセサリーの製造・販売、アフターケアを一貫して行うと同時に、博物館運営で観光客を呼び込み、久慈産琥珀のブランド力向上に貢献してきた。近年では、琥珀粉末の高品位・効率的な新成型技術の開発により、印鑑素材等の異分野にも進出し、製造品目の拡大・変革に取り組んでいる。

●所在地	岩手県久慈市小久慈町第19-156-133	●設立	1981年
●電話/FAX	0194-59-3821/0194-59-3515	●資本金	4,000万円
●URL	http://www.kuji.co.jp/	●従業員数	60人
●代表者	代表取締役社長 新田 久男		



需要獲得

学術的知的好奇心を刺激する体験型観光施設の開発

久慈市の地域資源である「琥珀」を活用し、学術的知的好奇心を刺激する体験型観光施設「久慈アンバーランド」を開発中。体験型観光メニューのバリエーション拡充、久慈市管内の観光施設との連携、恐竜・古代生物関連イベントの開催等により、観光客数の増加・地域活性化に貢献している。特に近年では、久慈層群が日本の恐竜化石の産地として研究者・古生物学者らから認識されている。2018年6月には同社の琥珀採掘体験場で体験参加者が掘り当てた化石がティラノサウルス類の歯の化石であることが判明。その後、博物館での特別企画展の開催など、情報発信やプロモーションを強化している。



「琥珀博物館」の新館及び本館

サービス

新たな価値を生み出す新成型技術を開発

大切な資源である琥珀の有効活用のため、これまで活用されてこなかった小さな琥珀のかけらを精錬し、粉末状にしたものをインゴット（延べ板）として再生する新たな成型技術「リファインドアンバー」を開発。従来不可能であった形状・大きさの製品開発も可能となった。この技術を生かし、印鑑、時計、ネームプレート、文具等の製造・販売事業を新たに展開している。



上皇上皇妃へ献上された万年筆

中華圏等での琥珀販売の拡大、リトアニアとの交流

琥珀は中華圏等のアジアや北欧で古くから人気があり、同社は中国福建省の店舗（海外特約店）やオンラインショップで琥珀のアクセサリー等を販売している。また、自社HPに中国語サイトを設け、中華圏向けに情報発信を積極的に行い、認知度向上を図っている。さらに、「琥珀の採れる港町」の縁で、1989年に久慈市とリトアニアのクライペダ市が姉妹都市となったことをきっかけに、リトアニアの工芸品や民芸品・菓子・酒等を輸入し、「リトアニア館」にて展示・販売を行っている。



リトアニア館での展示・販売